

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	4072900378		
法人名	医療法人 寿栄会		
事業所名	グループホーム 笑顔		
所在地 (電話番号)	福岡県小郡市三沢528-3	(電話) 0942-73-1222	

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】(20年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年2月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人 非常勤 1人 常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 ~ 39,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本間病院 ・ 島田病院 ・ 白木歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体病院の代表者が病院を退院した患者や家族が在宅生活に不安を感じる人が多く、在宅生活を支援しようとホームを設立した。代表者の思いが理念にも表れており、地域と結びついた生活の中で笑顔のあるホームを目指している。ホームは木造のぬくもりのあるゆったりと生活できる広いスペースがあり、利用者、職員共にゆったりと暮らしている様子が窺い知れる。また、地域との共生に取り組んでおり、地域の方が気軽に立ち寄れるホーム作りやホームの周りの清掃等を行っている。母体病院とホームとが協力し職員のスキルアップの為研修を充実させ更なるホームの質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点を会議にて管理者が職員に報告し、全職員が話し合い即座に改善を行った。食事を利用者と職員が共に摂り、和やかな時間を作っていることが確認できた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が2ユニットの全職員に説明を行い、職員からの意見を出してもらい話し合った結果を元に管理者が自己評価をまとめた。自己評価をすることで職員の意識向上に繋がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回定期的に開催しており、区長、老人会会長、市の介護保険課課長、利用者、家族の代表者、民生委員や職員等が出席し、ホームの現状、行事等の報告や市からの情報、地域からの情報の交換の場となり、地域の中でホームができる事を検討し、地域との交流に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時に気軽に会話をし意見や要望を聴き取っている。要望に対してホームで話し合い対応している。ホームの通信を家族に渡し利用者の状態を個々に文書で伝えている。また、ヒヤリハットの報告等も行い家族の不安への対応に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会したいと表明しているが、町内会からホームの業務とその他に仕事を増やしては申し分けないという返答があり、清掃活動等はホームの周りのみ掃除している。しかし、地域の夏祭りに職員、利用者が参加したり、法人と合同で感謝祭を開き地域の方々の健康相談や講演会を実施し、地域との交流を図っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	利用者の生活や個人の尊重、地域との結びつきを大切に笑顔とむくもりのある毎日を支援するとの意味合いの理念を管理者、職員が共に話し合って作り上げた。理念と別にケアに対する目標も掲げ、目に付きやすいところに掲示をしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し毎朝唱和をしている。会議等で管理者は職員に伝え、全員で共有しており、理念に基づいて利用者へ接しているか確認している。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には入会していないが、ホームの周りを清掃し町内の清掃活動に参加している。地域の夏祭りや敬老会に利用者と共に参加したり、母体の病院との合同の感謝祭では健康相談や講演会等行い地域との交流を図っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が会議で説明し、両ユニットの職員が合同で話し合い自己評価を確認し書き込み、それを管理者がまとめた。前回評価の改善点も即座に改善している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開き、区長、民生委員、老人会会長、市介護保険課課長、利用者、家族代表等の出席にて活発に情報交換を行っている。独居高齢者の集まりがある情報をもらいホームから出向きホームとしてできる事に取り組んでいる。		

グループホーム 笑顔

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時には必ず担当者や連絡を取り、相談等しやすい関係を構築している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居契約時に家族へ制度について説明を行い、ホーム内でパンフレットを元に研修を行っているが職員の周知にばらつきがある。		内部研修を繰り返し行い、全職員が周知が必要な時に説明ができるようホームの強みとなるのではないだろうか。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に利用者の近況報告をし必要に応じ電話連絡を行っている。また、ホーム通信に利用者個々の暮らし方を記入し家族へ渡している。金銭管理に関しては預かり金の管理を行い、金銭出納帳、現金と領収証等を照らし家族に確認してもらい捺印を頂いている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員に家族が意見や苦情を訴えやすい環境を作り、要望等はいつでも聴き取っている。苦情があった場合は関係者と話し合いを持ち、改善に向け取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動は必要に応じあるが、常にユニット間で行き来している為利用者は顔なじみの関係となっておりダメージは少ない。離職の場合は2週間程引継ぎを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>特に条件は無く、幅広い年齢層の採用を行っている。採用された職員は特技や趣味を活かし日々の業務や行事等でアイデアを出している。また、希望により休暇等取りやすいよう配慮している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人で入職時に全体研修を行っており、特に接遇に関して指導している。また、ホームでも毎日のミーティングに於いて管理者が職員に言葉遣い等について話している。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体の研修は年間計画が立てられ、テーマに沿って毎週勉強会があり、ホーム職員は必要に応じ参加している。ホーム内に於いては、月に1回勉強会を開いており、担当者がテーマを決め積極的に学ぶ機会を作っている。外部の研修等必要に応じ参加している。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のホームとの交流の機会はあるが、職員同士が交流を図る機会が少ない。管理者等が市へ他のホームとの交流の場を作ってもらおうよう働きかけている。</p>		<p>他のホームとの職員同士が研修を行ったり、情報交換の場を作ることでネットワークができ、更にサービスの質の向上に繋がるのではないだろうか。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族の見学や必要に応じ体験入所を行っている。また、入院先からホームの様子を知ってもらう為に日帰りでの体験を何度でも出来るようにしている。今後は生活歴の把握に努める為に自宅訪問も行う予定である。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の培った生活の知恵や料理の味付け等職員が教わる事が多く、日々の暮らしの中で役に立っている。また、利用者の誕生日に手作りのカードを贈り喜んでもらっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人、家族からの意見や要望を元に計画作成者と利用者の担当者等が話し合っているが、アセスメントに記入されておらず、思いや意向がわかりづらい。</p>		<p>本人や家族との会話や聞き取りをアセスメントに取り込み、誰が見ても解るようアセスメントシートの工夫を希望する。</p>
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がよい暮らしするための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族との会話等を元に入所時に担当者、ケアマネジャー、管理者が計画を立てその後職員が確認している。主治医からの意見は受診時に聞き取っている。サービス担当者会議は管理者、職員等で行われている。</p>		<p>本人や家族の意向を元に計画が立てられているが、担当者会議に本人、家族に参加してもらい、更に本人の意向がわかる計画を立てられることを希望する。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回モニタリングを、ケアマネジャー、担当者、管理者が主になって行っているが実施の記録が解りづらい。モニタリング後の計画を家族や職員が確認している。</p>		<p>モニタリングの記録を録り実施状況を明確にし、全職員の意見の聞き取り等関係者でのモニタリングが望ましい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の付き添いが難しい場合は受診の付き添いを行っている。宿泊を希望される家族等へは宿泊や食事の提供を行っている。また、母体病院受診後の高齢者が気軽に立ち寄りホームの様子を知る機会が多い。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話し合い納得できれば、協力医にて受診している。他科受診の付き添いも行い主治医と連携を行っている。協力医とは24時間対応可能で、状態の変化に即座に対応しており、1週間に1回往診をしてもらい利用者の状態を把握している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態の変化や急変の際には家族と話し合い対応している。重度化した場合は入院希望が多い。		医療連携体制がある為、重度化した場合の方針等を明確にし、家族への説明と同意書を得ることが必要と思われる。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の人格や意思を尊重し言葉遣い等には充分配慮している。個人の写真等を掲示することはしていないがホーム通信に写真を掲載している。記録物の保管は事務所の鍵の掛かる書庫に保管し個人情報の漏洩防止に努めている。		ホーム内には必要以上利用者の写真等は掲示していないが、ホーム通信に利用者の写真を掲載している為、個人情報保護の観点からも本人、家族に同意を得ることを希望する。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やレクリエーション等おおまかな時間配分はあるが、本人のペースに合わせて自由に過ごしてもらっている。また、希望を取りその日その日にしたいことができるよう支援している。		

グループホーム 笑顔

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできることをしてもらい、食事を作る楽しさを味わい、職員と一緒に食事を作っている。食事は職員も一緒に同じものを食し和やかな会話をしながら楽しんでいる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間の設定はしておらず、自由に入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者へはさりげない言葉をかけた利用者と声かけにて入浴を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じ役割があり、畑仕事や洗濯物たたみ、食事の後片付け、調理の下ごしらえ等楽しんでいる。誕生会や季節の行事、月に1回のドライブ、外食等利用者が楽しみ気晴らしができるよう支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り戸外に出られるよう声をかけ、近くのグラウンドへの散歩や近くのスーパーへや母体の病院の売店への買い物等希望に沿って支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、職員が見守りを行っている。利用者が外へ出たい時は職員も同行し思うままに歩き会話や景色を楽しんでいる。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練、避難訓練等夜間想定を含め定期的に訓練を実施している。母体の病院、地域の消防団との協力体制が整っている。災害時の備蓄品は法人にて揃えている。		

グループホーム 笑顔

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の管理栄養士が献立を作成し、栄養指導を行っている。食事摂取量は毎日全員記録し、水分摂取量に関しては必要に応じて記録をしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が家庭的な雰囲気落ち着いた環境となっている。壁面に絵画が飾られたり季節感のある飾り物が置かれ、ホーム全体の採光のバランスも考慮され自然の光が入り明るく心地よいものとなっている。廊下や、台所等掃除が行き届き清潔感がある。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと箆笥はホームで準備しているが、その他の家具や、使い慣れた椅子や思い出のある品物が配置され、環境の変化を少なくする工夫がされている。		